大学生等との食育に関する意見交換会開催概要

～　食の大切さを農業とともに考えよう　～

日　時　　平成２４年１０月２３日（火）　１２：５０～１４：２０
場　所　　高知学園短期大学
参加者　　２６名（学生２３名、教員２名、その他１名）
主　催　　中国四国農政局高知地域センター
共　催　　学校法人高知学園　高知学園短期大学
概　要

１　講演　**「全学年農作業を通じての食育及び地域とのかかわり」**
元福山市立新市小学校校長　山田和孝　氏

皆さんに、是非考えて欲しいことは、今なぜ食育なのか、なぜ食育に取り組まなければならないのか、自分との関わり、あるいは学校現場の今の子供達がどういう状況なのか。

私は新市とその前の曙と２つの小学校で９年間校長をしました。食育基本法が平成１７年に制定されましたが、私が食育を始めたのは平成１４年です。基本法が出来る前から、私は今の子供達の気になるところ、今育たなければいけないところを考えながら、農業というものを直接体験することで子供達の心を育てたい。そんなことを考えて取組を進めました。

子供達を取り巻く状況

2009 年度、就学援助費を受けている子供達は公立学校の児童・生徒の 15%、子供家庭センターへの児童虐待相談件数は、H14 年 23,738 件と 10 年前と比べ 17 倍に増加している。今の親は、子供と一緒にいるとイライラすることが多いという割合が増え、親が子、子が親を殺すという痛ましい事件も起こっている。

次に子供の生活実態を見てみると、テレビは 9 割の子供が毎日見ている。それも 1 日平均 3 時間を超えて見ている。一方、自然体験が少なくなり、トンボや蝶を捕まえたことがないという子供が 35%。日の出とか日の入りを見たことがないという生徒も 43%いる(H17)。朝食は、小５年生の 15.6%(H12)が週に２日以上食べないことがあるという現実。

自分に自信がない日本の子供達

「自分に自信がある」と言う項目で国際比較をすると、アメリカ、韓国などと比べ日本は非常に低くなっている。自分に自信が持てない、自分の良さが認められていないと思う子供達が段々追い込まれていっている状況。こうしたなかで、私たちが食育を通して子供達にどんな力を着けていくのかに繋がって行かなければならない。

３つのＬ

私が教員時代、職員に言ってきた事は、３つのＬ。

１　いかに周りの人を受け止めるか　　How to love
２　いかに学ぶか　　How to learn
３　人としてどう生きるか　　How to live

これをベースに、36 年間教員を続け、どんな時代にあってもみんなが主体的に生きていける、そんな子供達に育てて行きたいと考えてやってきた。

忘れられない３つの思い出

私が食育に取り組んで来た根底に、６２歳になった今もずっと心の中にある、５０年前の３つの思い出があります。

皆さんは麦ご飯を知りませんか。戦後しばらくは貧しく、私の家でもご飯を炊くときは２～３割麦を混ぜていました。当時通っていた中学校は弁当持参でした。朝、弁当にご飯を詰めるとき、親が麦は色が黒いからと白い米だけ詰めてくれていた。親は友達から貧乏とか言われて、寂しい思いをしないようにと気を遣ってくれていた。それが涙が出るほどうれしく、これで親に心配を掛けられないと思った記憶があります。

それから私の親は、赤飯やお寿司を作ったときは、小学生の私に、「近所の人達に持って行け」というんです。恥ずかしい思いで持って行くとすごく喜んでくれた。「自分の行為で人が喜んでくれた」それがずっーと残っています。これが２つ目です。

最後の３つ目は、桃を作っていた親が、当時大八車を押して坂に差し掛かったのを同級生が「おまえの親だろう、押してやろう」と７～８人で手伝ってくれた。照れくさく、でもうれしかった。こうした人との関わり、５０年経ったがまだ忘れられない。

明日の新市を拓くバトンを地域から貰う

私が取り組んだ教育ミッションは「明日の新市を拓く生きる力の育成」です。あなたのお父さんお母さんが、あなた方を本当に一生懸命愛して育ててきたことを自分がしっかり捉えなかったら、自分の子供にそのバトンを渡すことが出来ないです。明日を拓く力というバトンをしっかり受け継いでいくためには、その地域の先輩から勉強しなければいけないということで、新市小の家族だけでなく、新市の町の色んな方と子供達を農業体験を通して徹底的に関わりを持たせてきました。

子供達の体験

具体的には**１年生**では、菊を栽培しました。植えて、咲かせ、その頑張って栽培した菊を地域に子供達が配って回った。花束に手紙を添えて、１年目は子供達が３０カ所選んで行きました。僕はここに持って行きたい、私はここにプレゼントしたいと、２～３人グループで行きました。校医の先生、郵便局、消防署、公民館、お店のおばちゃんとか。お世話になっているところに配りました。校医の先生は、診察を中断して子供達にありがとうと言ってくれた。そうした喜んで下さるのを子供達は、恐らく死ぬまで忘れないと思います。病院には「小学校から送られた花」ということを書いた紙と一緒に長く飾って頂き、患者も見ますので新市の町の人達にも伝わっていきました。今も続いているそうです。

２年生はサツマイモ、キュウリ、なす。来年新１年生になる保育所等の年長組を招待し、

来年は仲良く学校へ行こうねとサツマイモを一緒に食べたり、縄跳びの練習している話とか、そんな交流をしました。

３年生は、アスパラガス、大根。これは町内の女性会を招待して大根のおでんを一緒に作って食べました。アスパラガスは、栽培している地域の人達に栽培方法を教えて貰って作りました。

４年生は黒大豆。食生活改善推進員の協力を得て、１年目は梅酢煮とか黒豆ご飯とかを作って一緒に食べました。２年目は味噌をつくり、みそ汁を食べました。

５年生は稲。地域の人に来て教えて貰い、全て自分たち。もみの種まきから苗を作り、田植え、草を取り、稲刈り、ハゼ掛け、脱穀（足踏み）までやりました。そして地域の老人会を招待し、おにぎりとみそ汁を一緒に食べながら､稲作業から学んだことを発表した。

６年生は、クワイ。福山市はクワイ日本一の生産地です。12 月に収穫したものを地域の福祉祭りに出品しました。地域の人達の協力で、３０分で完売することができました。２年目は、事前予約まであって、子供達は元気とやる気をもらいました。

それから、明るい町づくり委員会の方を呼び、また、遠くから前の曙小の保護者も来て下さり、クワイの料理の仕方を教えて貰って、色々な料理をしました。この時も来て頂いた方から「将来の新市を頼む」とのお話しを頂いた。最近は親からこうした話を聞くことも無い。料理を一緒に食べていくなかで、そんな話題・交流が出来るのかなと思いました。

その延長線上でやったのが、喧嘩があったりとクラスがまとまらなかった**５年生の４泊５日の体験活動**です。北広島という山の中で、農家に民泊させました。１軒３～４人、多くて５人位のグループで泊めて貰った。洗濯は自分で、食事は家族と一緒に食べ、農家の手伝いをします。色んな体験をしました。この活動については、冗談じゃない、よその家に泊まったことがないのに、４泊もさせるのかと。親が納得しないんで、３回説明会をしました。こちらが、それ以上のものを子供達は持って帰るからと言っても聞いてくれないんです。参加した子供の感想文を一つ読ませて下さい。

参加した子供の感想文

「私は体験活動で色々な体験をしました。山の家ではみんなと仲良く話したり、掃除、料理作り、後片付けを協力しました。民泊では積極的に訪ねたり、北広島町のことを教えて貰ったりしました。また、トマトの収穫の話を最初から最後までキチンと聞くことができました。北広島町の景色に感激しました。山に囲まれて緑に染められているような景色でした。蝉の鳴き声がすごく、耳の中に響いていました。私についた力は積極的に訪ねたり、教えて貰ったり、話を最後まで聞くことです。それ以外にもう一つ、家族の大切さが改めて分かったことです。ごはんも作ってくれて、一杯のことを教えてくれて、私のために一杯のことをして、ここまで育てくれて本当に家族の大切さを知りました。」

伝えたいこと

何が言いたいかというと心と心を触れ合うような体験をさせること。新市小に１年生で入学し、ずっと在学しておれば６種類の作物を育てて卒業していくんです。１年生の菊から最後のクワイまで、６種類の作物をみんなで力を合わせ、地域の方に協力を得て、そしてその体験を持って中学校へ入学していく。子供達にすればすごい体験だと思います。

ただ物を作るだけでなく、人とどういう風に繋がって行くのか、地域の方とどういう風に繋がって行くのか。今の子供達は、親と話し込み事が殆どない。一緒にご飯を食べることも少ないのに、地域の方と話をすることなんて、まず取組をしない限りほっといたらできません。

変わってきた地域の人達

今、新市の中では、近所のおじいちゃん、おばあちゃんが、子供達に声掛けをしたり怒られたり褒めたり、色んな声掛けをするように、それが出来るようになりました。

取組の成果

〇子供達と地域の方との距離がものすごく縮まった。
〇体験活動を通して、達成感と感動を味わうことができた。
〇全校で 3,686 通の手紙を発信し表現力・コミニュケーション力が高まりつつある。
〇保護者、地域からの学校に対する信頼が獲得できた（保護者アンケート評価 94%）
〇給食の残量が激減した。

H19 年 11 月と取り組みを始めた翌年 11 月を比較すると、パン･ご飯と合わせた残量が 37 ㌔→8.2 ㌔、おかずの残量が 59 ㌔→22.9 ㌔に減った。これは給食センターの栄養士から、残飯の量が全然違うんだけれどどうしてですかと聞かれて初めて気がついた。

私からすれば副産物なんですが、大きな成果ではなかったかと思っています。

〇挨拶だけでなく会話ができるようになった。

今後の課題

〇自己肯定感・自己効力感を高める取り組みは、引き続き地域・保護者との密な連携が必要
〇地域の協力者の確保に努める
〇体験活動に要する時間の確保が必要
〇田畑の維持・管理費の確保が必要

２　意見交換

〇質問－自分が実習で行った学校は、低学年と高学年で作る物を変えていたんですが、学年毎に作る作物を変えている理由を教えて下さい。（学生）

回答（講師）菊は新市町内ですごく盛んで有名。それで伝統的な部分も含め、子供達に学ばせてやりたい。3年生のアスパラは新市町が特産地です。それから6年生のクワイは、福山市全体の特産品です。そういったことも子供達は知らない。同じ福山に住んでいてもクワイが日本一というのを知らないんです。地域に対して愛着･誇りを持つと元気が出るでしょ。うれしいじゃないですか。そんな力を子供達に着けさせたいなという狙いがあります。